

(New) 使える！ 伝わる！ 役に立つ！ 実践配色テクニック講座

実施日 2020年7月16日(木),17日(金)
(応募締切日 2020年6月11日必着)

デザイン関連技術 活用シリーズ!!



【使用教材例】



■こんな人に向けています！

- ・商品企画業務に色彩を活用したい
- ・カラーコンセプトの立案方法を知りたい
- ・配色テクニックのノウハウを勉強したい
- ・色彩の基礎を勉強したい
- ・カラーバリエーションはどうやって増やしたら、効果的か知りたい

◆昨年度セミナーでの使用教材
(本年度は変更になる場合もあります)

●セミナーの概要

セミナーNo	662	実施場所	産業技術短期大学校(最寄駅:相模鉄道「二俣川駅」)
内容	ビジネス上の装いやプレゼンテーションツール、普段のファッションやメイク、インテリアなど、あらゆるところに使える配色技法の基礎を学びます。一生枯れない永久不滅の配色調和論を身につけることで、多くの人に言いたいことが伝えられる配色テクニックを習得できます。	実施時間	8:50~16:10
		定員	20名(応募者多数の場合は抽選)
		受講料	6,200円
カリキュラム概要	1.カラーコーディネイトに必要な色の基礎知識 2.配色に使えるPCCストーンマップ(日本色研配色体系) 3.世界中の様々な配色調和論 4.実践配色実習(統一と変化のバランス)	使用教材 使用機器 など	■使用テキスト プリント等、配布します。

■申し込み方法

電子申請(<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/xa4/seminar/index.html>)

または、往復はがきによりお申込みください(はがき1枚につき1名)



■その他

※応募状況・荒天等により中止となる場合があります。また、定員、実施日、開催時間の変更あるいは実施時間を延長、短縮する場合があります。

※テキストが必要なセミナーの場合は、各自であらかじめ購入していただきます。なお、テキスト代は受講料とは別にご負担いただきます。

※個人情報については、「神奈川県個人情報保護条例」により取り扱い、セミナーに関する業務以外に使用することは一切ありません。

往復はがきの記入方法

(返信面)	(往信面)
63	①ご希望のセミナーNo.
あなたの	②セミナー名
①郵便番号	③あなたの住所
②住所	④あなたの氏名とよみがな (1枚につき1名)
③氏名	⑤日中の連絡先と電話番号 (勤務先、携帯電話等)
(裏面は白紙のまま)	⑥現在の仕事の職種 (例:製造業) (裏面は実施校の住所・校名を記載)

問合せ・往復はがきでのお申し込み先

神奈川県立産業技術短期大学校 スキルアップセミナー担当
〒241-0815 横浜市旭区中尾2-4-1 045(363)1233

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.kanagawa-cit.ac.jp/seminar/>



●このセミナーの特徴

1. まずは基本の色彩に関する基礎をしっかりと学習

カラーコンセプトを立てるには、まずはしっかりと色彩に関する基礎知識の習得が大切になります。わかりやすい教材でしっかりと理解することができます。

2. 配色手法を効果的に習得

色彩の基礎知識を理解できたら、次は色彩を使いこなすための配色テクニックを習得します。配色の理論をレクチャーした後、実際、自分で演習することで、効果的に身につけることができます。

3. 商品色彩計画を理解する

商品の売上げを左右する商品色彩計画に関して、どのように立案に進めていけばよいか、丁寧に指導をします。提示する各種事例からも多くのことを理解できます。

- ・商品計画の業務には、色彩関連の要素が大きく関わってきます。
- ・商品の売上げを大きく左右する色彩（カラーバリエーション）を決定するためのカラーコンセプトを実現するため、各種の事例を通して、学ぶことができます。
- ・企業において、商品企画、商品の色彩計画に携わっておられる方には、きっと役立つ多くのことが学べることでしょう。

◆使用教材例（本年度変更になる場合もあります）

環境色彩計画の概念

●色彩の2つの役割

様々な条件のもとで色彩計画をするとき、色彩にどのような役割を求めかによってデザインの手法は異なります。色彩の役割を大別すれば、機能的役割、より視認性や記憶性が要求される記号的役割（看板やシンボル等はこの役割）、イメージなどを連想させる情緒色としての2つの側面があります。

例えば工場の色彩計画で作業者の安全性を考慮するとき、注意や禁止を喚起するため

にJISの安全色彩使用選別（Z-9104）を使用します。あざやかな黄や赤を機能的に使用します。一方、とにかく暗くなりがちな工場環境を明るくしたり、速度な緊張感、落ち着き感を出したり、箇所によって気分をリフレッシュする色彩を使用しますが、これらは色彩の心理作用を応用しながら、より快適な作業環境を形成するための情緒色としての役割といえます。

記号的役割
—機能色—

記号性 視認性
サイン性 記憶性



色彩

精神的役割
—情緒色—

感性 快適性
イメージ 美観性






●3つの展開軸

環境デザインの構成要素は複雑多岐にわたるため、その色彩デザインは、明確な総合評価軸の設定が必要となります。ここでは環境デザインを環境—施設—ヒトという視点でとらえ、それぞれ環境特性—施設（形態）特性—イメージ特性という、3つの要素の関連性を

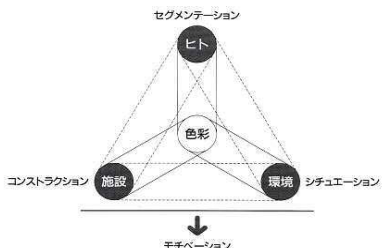
のうえに、まず環境色彩の在り方を明確にします。このような総合性に基づいた色彩のコンセプトを、環境と調和する約確な色彩を用いて、その見せ方をデザインすることが環境色彩計画です。

カラープランニング・トライアングル

○カラーセグメンテーション（ヒト—イメージ特性）

環境や生活シーンを選定しながら、その中で人間的なイメージの指向性や対照性を確保する作業といえます。思い込めるのは、色相とイメージの適合性を検討し、色相選定のほか

また、ヒューマンファクターの観点から、より具体的に色彩が人間に影響を与える要素（作業性・視認性・安全性）の分析が求められる。



○カラーコンストラクション（施設—施設・形態特性）

施設や道具等、用途の実態に即した色彩の分析・環境作業です。イメージによって定めた色彩（2次元平面サンプル）を立体や空間（3次元）に置き換えて、施設特性をプラスに活かしたり、逆にマイナス部分を色相によって、補正する作業が行われます。

○カラーシチュエーション（環境—環境特性）

施設の用途となる環境特性によって、色彩計画の対象である、建築や家具の色相・色調・色温度を決定し、施設特性や環境特性、社会的や文化的な色彩デザイン（ロゴ・グラフィック）を把握します。

環境デザインの重要な鍵となる空間系・時間系の拡大概念をベースに、空間への影響度を分析します。

↓カラーモチベーション

総合的な視点に立って、様々な環境色彩を計画するとき、提案するデザインは、社会性・特性性を無視してはなりません。提案は関係者から未来志向で進められているという点、これは

は、計画案が環境に及ぼす影響力の大きさや、地域との関わり方によって一定では必ずしも、自提案の必ずしも提案の適合し得る関係性を考慮しながら決定する作業です。